

令和4年9月1日

各 位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3  
電話 023-634-4120

## 山形市野草園からのお知らせ(9月号)



渡り蝶アサギマダラ

### 「自然と音楽の響演 in 野草園」開催決定!

日毎に日が短くなり秋の気配が深まっていく9月、そんな時季に野草園にやってくるのが「渡り蝶 アサギマダラ」です。野草園では、アサギマダラが一番多く見ることのできる9/17~25の期間、アサギマダラ祭りが行われます。その期間中、『自然と音楽の響演 in 野草園』の開催が決まりました。

ようやく涼しくなる秋分の日頃、自然の中で生の音楽に触れていただくという企画です。自然学習センターピロティーで行われる生演奏を、中央広場のベンチや野草の丘の芝生に座って聞いていただきます。自然との触れ合い、アサギマダラとの触れ合い、そして、音楽との触れ合い、大人にとっても子どもにとっても心に残る秋の一日となることでしょう。

秋の気配が色濃くなっていく日、自然の中で過ごしてみませんか。自分だけの秋の一日をつくり上げませんか。さあ、野草園に出かけましょう。

#### 「自然と音楽の響演 in 野草園」

- ① 9月17日(土) 13:30~
- ② 9月24日(土) 13:30~

山形市役所ウインドアンサンブル  
山形交響楽団 ホルン四重奏

## 9月の予定

### ◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期 間 野草園開園期間 4/1(金)～11/30(水)
- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与(1日1回まで)  
《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

### ◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日・祝日 1日2回実施 9月は土曜日も実施します
- 時 間 ① 午前10:30～午前11:30 ② 午後 1:30～午後2:30
- 費 用 参加費無料 《ただし入園料300円(高校生以下無料)》

### ◆アサギマダラ祭り

- 日 時 9/17(土)～9/25(日) 午前9:00～午後4:30
- 内 容 秋の七草のひとつフジバカマに渡りをする蝶として有名なアサギマダラが飛来します。  
野草園内「七草の庭」で最盛期には一度に300頭以上の乱舞が見られます。
- 入園料 大人300円(高校生以下無料)

### ◆自然と音楽の響演 in 野草園

- 日 時 ① 9月17日(土) 午後1:30～ 山形市役所ウインドアンサンブル  
② 9月24日(土) 午後1:30～ 山形交響楽団 ホルン四重奏
- 内 容 自然の中に響く音楽を楽しもう
- 入園料 大人300円(高校生以下無料)

### ◆ボタニカルアート作品展

- 日 時 9/4(日)～9/25(日) 午前9:00～午後4:30  
(初日は午後1:00から、最終日は午後3:00まで)
- 内 容 杉崎ボタニカルアート教室の先生と生徒の作品を展示
- 入園料 大人300円(高校生以下無料)



### ◆樹皮編み教室

- 日 時 9/10(土) 午前10:00～正午
- 講 師 フラワースクールピュア 多田 葉津恵 氏
- 内 容 クルミ等の樹皮を使って小物入れを作製 ○対 象 先着13人
- 参加費 2,400円(入園料別)
- 申込み **すでに定員になり締め切っています**

### ◆ボタニカルアート体験講座

- 日 時 9/21(水) 午前10:00～正午
- 講 師 杉崎ボタニカルアート工房 杉崎紀世彦 氏 杉崎文子 氏
- 内 容 野草園の植物をモデルに鉛筆デッサン
- 対 象 先着15人
- 参加費 800円(入園料別)
- 申込み 9/1(木)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

### ◆山野草の育て方教室

- 日 時 9/27(火) 午前10:00~正午
- 講 師 蔵王園芸 佐藤祐一 氏
- 内 容 ウメバチソウとリンドウの寄せ植え、イワシャジンの鉢植え  
お持ちの山野草の植替え等の指導も行います(植え替え時の用土など材料代は、別途実費がかかります)
- 対 象 先着13人
- 参加費 2,700円(入園料別)
- 持ち物 寄せ植えを持ち帰る袋または箱
- 申込み 9/1(木)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

### ◆アサギマダラ観察会

- 日 時 10/1(土) 午前10:00~正午
- 講 師 日本蝶類科学学会理事 横倉 明 氏
- 内 容 渡り蝶として有名なアサギマダラを観察しながら、生態やマーキング調査等について解説
- 対 象 小学生とその保護者 先着10組20人
- 参加費 資料代・入園料込1組400円
- 申込み 9/15(木)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

### ◆ガーデニング教室

- 日 時 10/8(土) 午前10:00~正午
- 講 師 花のひこうき 戎野日出男 氏
- 内 容 冬に咲く花を使ったハンギングバスケット作り ○対 象 先着15人
- 参加費 3,200円(入園料別)
- 持ち物 寄せ植えを持ち帰る袋または箱
- 申込み 9/15(木)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

### 《「第29回野草園の魅力を探る写真コンテスト」作品募集》

- 対 象 令和3年10月以降に野草園で撮影された写真
- 申込み 9/1(木)~21(水)に野草園へ 【期間内必着】
- 詳 細 詳細はホームページ(<https://www.yasouen.jp>)の応募要項をご覧ください  
今回から小中学生の部を新設しました。

### ◆カフェの営業・山野草販売 (自然学習センターで販売)

○カフェやまぼうし

《営業》木曜・土曜・日曜・祝日 午前10:30~午後2:30

《メニュー》カレー、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー

○山野草販売

《営業》土曜・日曜・祝日に販売予定(平日販売の場合もあり)

### ◆開花した花等の紹介

- 野草園のホームページから観察日記・インスタグラムをご覧ください。  
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます。  
検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。

▲野草園観察日記▲



## ●●● 9月に見られる主な花 ●●●

### 秋の七草 その1~その7



#### カワラナデシコ（ナデシコ科） その1

各地の山野に自生する多年生草本です。葉は対生し、線形または披針形で、基部は茎を少し抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は、花弁の先が細かく裂けとても優美に見えます。秋の七草のひとつに数えられていますが、7月には咲き始めます。河原に生える可憐な花の様子が名前の由来です。



#### キキョウ（キキョウ科） その2

日当たりのよい山地や野原などに生える多年草です。根は太く黄白色をしており、薬用とされます。葉は長卵形で先は尖り、縁には鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を開きます。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。



#### オミナエシ（スイカズラ科） その3

日当たりの良い山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し、裂片は尖ります。茎は上部で枝分かれし、そこに黄色の小さい花を多数つけます。秋の七草として有名な植物です。花が満開になるとその独特なおいで、オミナエシが咲いていることがわかります。



#### ススキ（イネ科） その4

野原に生育する多年草です。尾花ともいい秋の七草のひとつです。また、茅（かや「萱」とも書く）と呼ばれる有用植物です。短いがしっかりした地下茎から、多数の花茎を立てます。葉は細長く、茎の先端から十数本に分かれた花穂をつけます。



#### ⑤クズ（マメ科） その5

山野に見られる大形のつる状草本です。茎の基部は木質化します。葉は大きく、3出複葉です。葉腋から総状花序が上向きに立ち上がり、濃紺紫色の甘い芳香を発する蝶形花を房状付け、下から順に開花します。根は太く多量のでんぷんを含んでおり、葛粉（くずこ）がとれます。



### ヤマハギ (マメ科) その6

各地の山野に生える高さ2m程の落葉低木です。葉腋から長い花柄を伸ばし花をつけます。紅紫色の蝶形花は、翼弁の色が濃く、ほぼ竜骨弁と同じ長さで少し内側に曲がります。葉は長い葉柄があり、広楕円形の小葉の先端は円形です。花柄も長く、葉の間から花穂が突き出しているのが特徴です。



### フジバカマ (キク科) その7

奈良時代に中国から渡来し、本州の関東地方以西、四国、九州などに野生する多年草です。葉は短い柄があり対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があり、それが散房状にたくさんついています。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっています。



### ウゼントリカブト(キンポウゲ科)

東北奥羽山脈を中心とした山地帯に生える多年草です。草丈50～180cmの茎の上部に青紫色の花を付けます。花弁に見えるのは萼片で、その中に細長い花弁が2枚あり、奥には距という部分があり蜜が分泌されます。雄しべと雌しべは入口の下側にあります。強い有毒植物です。



### アケボノソウ(リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、花は白く深く5裂しているのが特徴です。裂片には、黄緑色の蜜腺溝が2個と濃緑色の斑点が多数あります。この白い花弁を明け方の空に、斑点を星々に見立てたことが「曙草」の名前の由来です。



### サラシナショウマ(キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草です。茎の先に総状花序を出し、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落します。名前は晒菜升麻と書き、若葉をゆでて水でさらして食べたことが名前の由来です。根茎は肥大し、乾かしたものが生薬の升麻(しょうま)で解毒・解熱剤などに使用されました。



### ツリフネソウ (ツリフネソウ科)

水辺に群生する1年草で、茎は赤みを帯び節がふくらみます。葉の基部はくさび形で形は菱状楕円形、縁には鋸歯があります。茎先に数個の紅紫色の花を釣り下げます。距は著しく後ろに突き出て渦巻き状になっています。果実は熟すと果皮が裂けて種子を飛ばします。名前の由来は、花の姿が花器の釣舟に似ることによります。



### キツリフネ (ツリフネソウ科)

山地の林内や林縁など、湿った半日陰地に生育する1年草で草丈は50cm程です。葉の付け根から花茎を出し、黄色の花を釣り下げます。淡紅色のツリフネソウの距が巻いているのに対して、本種は距が伸びています。



### カリガネソウ(シソ科)

山地や原野に生える多年草です。近くによると臭気があります。茎の断面は四角形で、葉は鋸歯のある広卵形で対生します。葉腋から長い柄を持つ集散花序を出して、紫色の唇形花をまばらに付けます。雄しべ、花柱ともに長く、花冠から飛び出すのが特徴です。花の形が雁(かり)の姿に似ていることが名前の由来です。



### アキノノゲシ(キク科)

日当たりの良い荒地や草地に生える草丈0.6~2mの1~2年草です。下部の葉は羽状に裂けますが、上の葉は小さくて全縁です。茎の上部に円錐状に淡黄色の花を数個付けます。花は昼間開き、夕方にはしぼんでしまいます。



### ツルボ(キジカクシ科)

山野の日当たりの良い所に自生する多年草で、ニラに似た長線形の葉を出します。高さ20~40cmの花茎を立ち上げ、分岐せず茎の先に多数の小花を穂状につけて下から上に咲いていきます。ツルボの球根の外皮をとると、つるりとした坊主頭に似ており、「ツルボウズ」から転訛して「ツルボ」の名前になったといわれています。



### ハナトラノオ（シソ科）

北米原産で大正時代に渡来しました。穂状の花序に淡紅紫色又は白色の花を付けます。別名「角虎ノ尾（カクトラノオ）」。茎が角ばっていて、花が虎の尾に似ていることから付けられた名前です。さらに、花がとても綺麗なので「花の虎の尾」の名前がついたようです。とても丈夫な植物で、ほとんど世話が必要ありません。



### センニンソウ(キンポウゲ科)

山野などに生える多年生のつる植物です。茎は長く伸びてまばらに分枝し、葉と同様に無毛です。葉は対生、奇数羽状複葉で3～7枚の小葉があります。葉の腋に白色の花を多数つけます。萼片は4枚で十字形に平開し、それが花弁に見えます。花後、果実より伸びた銀白色の長い毛が、まるで仙人のヒゲを連想させることが名前の由来です。



### ツクシハギ（マメ科）

本州岩手県以南、四国、九州に生える高さ2mほどの落葉低木です。茎は斜上し、よく枝分かれます。小葉は厚質で、楕円形～卵形、表面（向軸側）は無毛。花は長さ10～15mm。全体が白っぽい紅紫色で、旗弁の内側（向軸側）が紅紫色、外側（背軸側）は淡色、翼弁は紅紫色、竜骨弁はほとんど白色です。



### ミヤギノハギ（マメ科）

高さ1.5m程の落葉低木ですが、草本のような性質も備えているので半低木ともされます。花は、葉腋に多くつき、長さ1.5cm程になる紅紫色の蝶型花です。枝がとても柔らかく、地面に着くほど枝垂れているのが特徴です。葉はマメ科に普通の三出複葉で、小葉は円形に近い楕円形、長さ3cm前後です。日本各地に分布しています。



### シラハギ（マメ科）

ミヤギノハギの変種で、白い花をつける落葉低木です。多少、枝垂れるのが特徴です。高さは1～2m。全体に絹状の伏毛があります。葉は3出複葉で互生します。小葉は長さ2～6cmの楕円形又は長楕円形です。シロバナハギと呼ばれることもあります。



### センニチコウ(ヒユ科)

古く日本に入ってきた園芸用の草花で、熱帯地方原産の1年生草本です。茎の先に長い花茎をだし、その先に1個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色ですが、淡紅色、または白いものがあります。花が長持ちすることが名前の由来です。



### ワレモコウ(バラ科)

山野に普通に生える多年草です。花は楕円形で、上から下へと開花します。花は花弁がなく4枚の萼片が花弁のように見えます。萼片は暗紫色で雄しべは4個、葯は黒く萼片より短いようです。花の名前は、紋所のモコウからきたものといわれています。



### エソリンドウ(リンドウ科)

福井県以北の山地帯から亜高山帯の湿地に生える多年草です。茎の中・上部の葉は対生、まれに3枚輪生します。青紫色の花は茎の先や葉の腋につけ、筒状鐘形で5裂します。切り花用に栽培され、さまざまな改良型がみられます。高山型で、主として茎頂のみに花をつけるものをエソオヤマリンドウといいます。



### リンドウ(リンドウ科)

秋の山を代表する多年草で、根茎は細く葉は緑色で、縁は細突起があってややざらつきます。茎の頂き、または、上部の葉のわきに青紫色の花を開きます。花は鐘状で5裂し、裂片の間にはさらに副裂片があります。エソリンドウが湿地に生えるのに対して、本種は山野に生えます。



### タムラソウ(キク科)

山地の草原などに多い多年草で、葉は互生して羽状に深裂します。枝先にアザミに似た花をたくさんつけます。葉もアザミに似ていますが、刺は無くやわらかい葉です。頭花は紅紫色で上向きにつき、総苞は鐘形で花柱の先がふたつに割れ反り返る特徴があります。